

環境経営レポート 2023

株式会社ジュンコーポレイション

Period covered 2023/1/1 ~ 2023/12/31

Release date 2024/2/1



®環境省

エコアクション21

認証番号 0001273

組織の概要

事業所 : 株式会社ジュンコーポレーション
 〒379-0211 群馬県安中市松井田町上増田53-1
 ☎ 027-393-1375 FAX 027-393-4331 URL <https://www.jun-corporation.com>

代表者 : 代表取締役 小坂橋 義和
 E-mail yoshikazu@jun-corporation.com

管理責任者 : 品質管理課 宮田 延之
 E-mail miyata@jun-corporation.com

事務局 : 総務課 多胡 美千子
 E-mail tago@jun-corporation.com

環境委員 : 技術課 熊谷 俊明
 E-mail kumagae@jun-corporation.com

環境委員 : 製造課 金井 貴徳
 E-mail hp@jun-corporation.com

事業内容 : プラスチック射出成形製品及び金型の製造・販売
 ガスインジェクションやヒートアンドクールの特許技法が得意

事業規模	：	資本金	売上高	社員数	敷地面積	建物面積
		1,000万円	5億5千万円	37名	2,435㎡	1,539㎡

会社沿革



- 企業理念 ① 諸法令を守り、社内外において正直な会社でありたい。
② 会社に働く人々が能力開発につとめ、一人一人全員が幸せである会社でありたい。
③ あらゆる人に思いやりをもち あらゆる部門間において気を配り (以下省略)

環境経営方針

株式会社ジュンコーポレイションは、プラスチック製品の製造において環境保全活動が重要な課題であると認識し、積極的に取り組みます。

行動指針

1. 全社員が環境保全活動に参加し、継続して改善します。
2. 当社の事業活動に関連する環境関連法規を遵守します。
3. 当社の事業活動に伴う以下の環境負荷の削減に取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の削減
 - (3) 水使用量の削減
 - (4) 化学物質使用量の削減
4. 当社の製品・サービスにおいて、顧客満足を向上します。
5. 代表者が環境保全活動の成果を見直し、継続して改善します。
6. 当社の環境方針は全社員に周知し、一般に公開します。

改定 2021年1月19日
制定 2006年6月19日
株式会社ジュンコーポレイション
代表取締役 小坂橋 義和

1 対象範囲

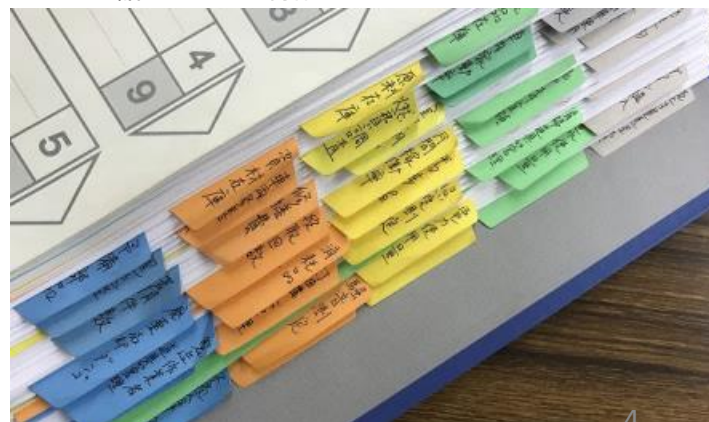
全社員が環境保全活動に参加し、継続して改善しています。



整理・整頓・清掃 及び インドネシア語マニュアル制作



2006年から エコアクション21 改善活動を継続しています。



社員全員がひとり一つの改善項目を実施しています。

昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

更新された法規はないか、新たに追加すべき法規はないか再確認し、最新のものとなっているよう責任をもって管理する。

本年度の改善実施 Do

法令自体の改定日を記し、必要な管理を実施する。

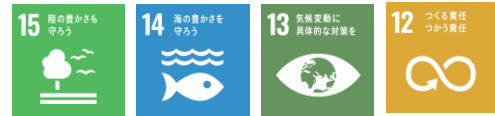
環境関連法規	管理内容 Plan	実施状況 Do	遵守 Check
自動車NOx・PM法 2023.1.1	尿素SCRシステムの装着及び 八都県指定粒子状物質減少装置の装着	2tトラック 尿素SCRシステム装着済	○
大気汚染防止法 2022.6.17	粉塵特定施設【強化プラスチック製品の製造の用に供する成形機】を知事へ届出	16台の全成形機 届出済 最終届出日2016.9.29 (2号機)	○
フロン排出抑制法 2022.6.17	7.5Kw未満のエアコン (簡易点検4半期に1回以上) 7.5Kw以上のエアコン (定期点検3年に1回以上)	7.5Kw未満のエアコン (5台) 簡易点検4半期に1回実施 (自主点検) 7.5Kw以上のエアコン (2台) 定期点検2021年3月13日実施	○
浄化槽法 2022.6.17	11条検査 1回、点検年2回実施	11条検査1/24実施済 点検5/6、5/22、9/6、11/1実施済	○
騒音規制法 2022.6.17	朝 6～8時 50dB 昼間 8～18時 55dB 夕 18時～21時 50dB 夜間 21時～6時 45dB 成形機、特定施設設置届出	規制値以下であった。 16台の全成形機 届出済 最終届出日2016.9.26 (2号機) 近隣住民からの苦情無	○
振動規制法 2022.6.17	昼間8～19時 70dB 夜間19～8時 65dB 成形機、特定施設設置届出	規制値以下であった。 16台の全成形機 届出済 最終届出日2016.9.26 (2号機)	○
悪臭防止法 2015.8.1	臭気規制基準に準ずる 苦情が発生した際、安中市から測定される	近隣住民の苦情無し	○
自動車リサイクル法 2022.6.17	自動車リサイクル料の支払い 2tトラック、アウディ、パレット、ダッジ	社用車4台全て対応済	○
廃棄物処理法 2022.6.17	・廃棄物の保管・整備・管理 産業廃棄物に対するマニフェスト管理 ・毎年6/30までに1年間のマニフェストの交付状況を 知事に報告	一般廃棄物と産業廃棄物の分別処分済 マニフェスト発行100%実施 2023年6月17日 報告済	○
P R T R 法 2015.8.1	第一種指定化学物質の排出量の把握及び届出 1000kgを超える場合届出	アンチモン排出量 754kgの為届出 不要	○
労働安全衛生法 2022.6.17	健康診断 日勤 (1回/年)、夜勤 (2回/年) クレーン定期自主点検 (1回/年) フォークリフト定期自主点検 (3台)	10/6日勤実施、4/20、25、26、10/7夜勤実施 8/31実施 (2基) 3/28、4/13、4/18実施 (3台)	○
高圧ガス保安法 2022.6.22	高圧ガス発生装置2台のメーター及び安全弁の校正と自主点検	3/25、12/23メーター、安全弁の校正実施 自主点検毎月実施済 (定期点検記録表)	○
消防法 2022.6.17	避難訓練年1回、 消防用設備等点検 (1回/3年報告)	8/11火災避難訓練実施済 11/29 点検済	○
工場立地法 2022.6.17	工場敷地面積の15%確保	23.8%確保済 敷地面積 (3962㎡)、緑地面積 (941㎡)	○

環境関連法規の遵守 Check

環境関連法規の全項目を実施し、遵守しています。
近隣住民からの苦情及び訴訟等の問題は、ありませんでした。

社長の評価・指示 Action

定期的に法規を確認し、変更点や追加事項の有無を確認し、届出漏れや実施・点検漏れの無いように管理してください。



昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

二酸化炭素排出量の9割近くを占めている電力の削減を重点に①デマンドコントロールの設定値を低減し全社員で取り組む。さらに、②油圧機械の電動化及び稼働の制限や③地下水利用又は④太陽光発電など、設備投資を含めて提案し改善する。

本年度の改善実施 Do

①デマンドコントロールは、前年235kwに対し、2024年から230kwに低減し全社員で節電を実施した。

②油圧機械の電動機械への更新は部品供給の問題で来年度に持ち越し、油圧機械の稼働の制限を実施し2022年比16.7%削減する事ができた。

③空調の地下水利用は専門業者の調査で地質上採取が困難とのことで導入を見送った。

④太陽光発電は左図のように工場屋根に設置完了し12/18から発電開始した。



工場屋根全体に太陽光パネル設置

	2022年	2023年	評価
油圧機稼働率 (%)	77.5	60.7	○
年間最大デマンド (kw)	235	230	

二酸化炭素排出量の削減評価 Check

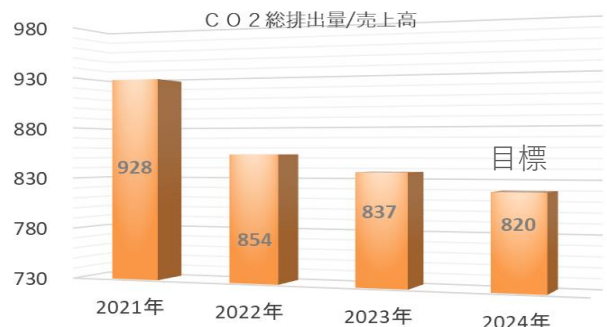
CO2排出量は短期目標2022年比で1.9%削減となり目標を達成した。①毎年7,8,9月にデマンドコントロールのアラームが頻繁に鳴っていたが、即時対応でデマンドコントロール設定値を超えるのを防止できた。②油圧機械の電動化は2024年4月に導入予定および④太陽光発も2024年1月からの実働になるため来年度に期待する。

長期目標 2022年比 2024年まで	短期目標 前年比	2021年	2022年	2023年	2022年比 評価
CO2 総排出量 2%削減	CO2 総排出量 1%削減	CO2総排出量=550,615kg-CO2 売上高=593百万円 CO2総排出量/売上高=928kg/百万円	CO2総排出量=520,330kg-CO2 売上高=609百万円 CO2総排出量/売上高=854kg/百万円	CO2総排出量=461,457kg-CO2 売上高=551百万円 CO2総排出量/売上高=837kg/百万円	売上比 1.9%減 ◎
電力 2%削減 (売上対比)	電力 1%削減 (売上対比)	CO2排出量=484,457kg-CO2 (排出係数0.41) CO2排出量/売上高=817kg/百万円	CO2排出量=449,383kg-CO2 (排出係数0.41) CO2排出量/売上高=738kg/百万円	CO2排出量=401,481kg-CO2 (排出係数0.41) CO2排出量/売上高=729kg/百万円	売上比 1.2%減 ◎
灯油 2%削減 (売上対比)	灯油 2%削減 (売上対比)	CO2排出量=53,233kg-CO2 CO2排出量/売上高=89.8kg/百万円	CO2排出量=57,406kg-CO2 CO2排出量/売上高=94.3kg/百万円	CO2排出量=48,874kg-CO2 CO2排出量/売上高=88.7kg/百万円	売上比 5.9%減 ◎
ガソリン 軽油 15,000 (kg-CO2以下)	ガソリン 軽油 15,000 (kg-CO2以下)	CO2排出量=12,895kg-CO2 CO2排出量/売上高=21.7kg/百万円	CO2排出量=13,542kg-CO2 CO2排出量/売上高=22.2kg/百万円	CO2排出量=11,041kg-CO2 CO2排出量/売上高=20.0kg/百万円	15,000 kg-CO2 以下 ◎
LPガス 1,000 (kg-CO2以下)	LPガス 1,000 (kg-CO2以下)	CO2排出量=30kg-CO2 CO2排出量/売上高=0.05kg/百万円	CO2排出量=0kg-CO2 CO2排出量/売上高=0kg/百万円	CO2排出量=60kg-CO2 CO2排出量/売上高=0.11kg/百万円	1,000 kg-CO2 以下 ◎

社長の評価・指示 Action

昨年に比べ2023年は受注量（売上）が1割減少し機械稼働が減少したのが大きな要因で目標達成となっている。電力の売上対比では昨年と同等で改善されたとは言にくい。

2024年は、油圧機の電動化及び太陽光発電の効果を見て増設も考慮し、粉碎機や乾燥機など使用していないときの電源OFFなどを皆で話し合い改善してください。





昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

廃棄プラスチックの内訳を分析し、段取上の問題か、条件出し中の問題か、不良処理の問題か、粉碎活用
の問題か、終了時片付けの問題か、要因の重要度を明確にして対策する。2023年度は10,000Kg以下めざす。

本年度の改善実施 Do

廃棄プラスチックの内訳をダンゴ（段取上の問題）、廃棄材（条件出し・不良処理の問題）、プラごみ（終了時片付けの問題）に分類した。

- ダンゴは異材等の混ざりのない物は粉碎し再生資源化する。
- 廃棄材は粉碎使用製品を増やし再生資源化する。（右表参照）
- プラごみはシールなど阻害部分を取り除き粉碎し再生資源化する。

顧客	製品名	粉碎使用
S社	RING	x
T社	SLIDE ATTACHMENT	0
T社	洋風じょうご(黒) (接着部分を削除し粉碎使用)	0
	洋風じょうご(新茶) (接着部分を削除し粉碎使用)	0



廃棄物排出量の削減評価 Check

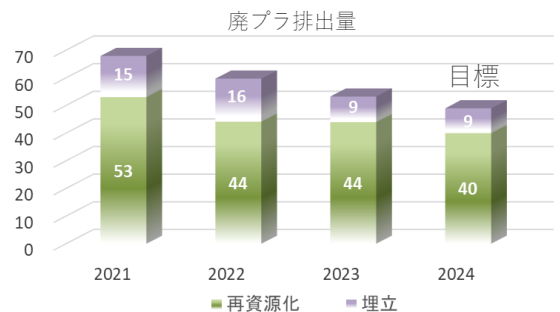
廃棄物の総排出量は2022年対比（短期目標）22.9%削減となり目標達成となった。ダンゴや廃棄材、プラごみ等廃棄していた製品から再利用の阻害要因を取り除き再生資源化するなどの対策で、再生資源の排出量を2022年比5.1%増やし、廃棄プラスチック量が2022年比40.4%減少し、目標の10,000Kg以下を達成した。

長期目標 2022年比 2024年まで	短期目標 前年比	2021年	2022年	2023年	2022年比 評価
廃棄物 総排出量 2%削減	廃棄物 総排出量 1%削減	総排出量 = 73,256Kg 売上比率 = 123.5kg/百万円	総排出量 = 60,893Kg 売上比率 = 100.0kg/百万円	総排出量 = 42,479Kg 売上比率 = 77.1kg/百万円	売上比 22.9%減 ◎

内 訳	2020年	2022年	2023年	原単位評価
再生資源 2021 2022 2023 79% 73% 77%	紙=197Kg 段ボール=284Kg 金属（金型）=4,000Kg 金属（スプレー缶）=73Kg 再生プラスチック=53,044Kg 再生資源合計 = 57,598Kg 売上比率 = 97.1kg/百万円	紙=241Kg 段ボール=105Kg 金属（金型）=150Kg 金属（スプレー缶）=54Kg 再生プラスチック=44,160Kg 再生資源合計 = 44,710Kg 売上比率 = 73.4kg/百万円	紙=41Kg 段ボール=262Kg 金属（金型）= 0 Kg 金属（スプレー缶）=38Kg 再生プラスチック=32,397Kg 再生資源合計 = 32,943Kg 売上比率 = 77.2kg/百万円	2022年比 5.1%増 ×
焼却・埋立 2021 2021 2023 21% 27% 23%	紙=783Kg 廃棄プラスチック=14,875Kg 焼却・埋立合計 = 15,658Kg 売上比率 = 21.4kg/百万円	紙 609Kg 廃棄プラスチック 15,575Kg 焼却・埋立合計 16,184Kg 売上比率 = 26.5kg/百万円	紙 467Kg 廃棄プラスチック 9,275Kg 焼却・埋立合計 9,742Kg 売上比率 = 22.8kg/百万円	2022年比 13.9%減 ◎

社長の評価・指示 Action

具体的な数字を明確に記してください。ダンゴ？、廃棄物？、プラごみ？、区分けは任せるが何Kgだったのか、廃棄する原因は何で、どのように生かしたのか分かりません。2024年1月からスタートしてください。2024年も10,000Kg以下を維持するよう願います。



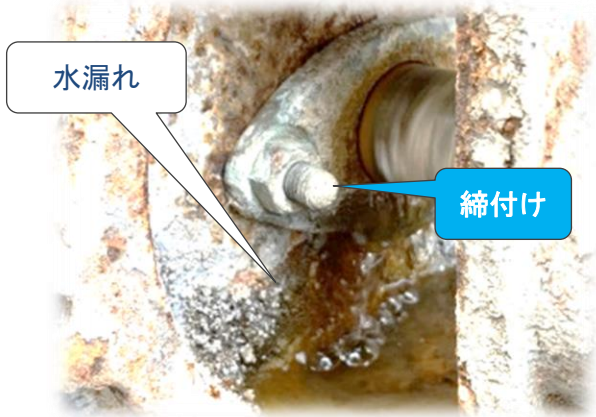


昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

工場内で使用している金型温調機及びボイラーの水は貯水槽により循環しているためロスは少なく、その他は生活用水として使用している。ボイラーは特殊技術であるヒート&クール（金型を急加熱・急冷却するシステム）で使用するためのものであるが区別して使用量を見極めるのは難しい。生活用水はトイレや手洗いの水が主で一般的な工場に比べれば圧倒的に少量である。金型・温調機からの水漏れ早期発見、早期対処が定着しつつあるが、日常点検で毎日チェックし水漏れを未然に防ぐことを継続実施する。クーリングタワーのポンプから水漏れが目立つ時がある、こちらは月一で確認・調整を行う事で水漏れを防ぐ。

本年度の改善実施 Do

日常点検で金型と温調機の冷却水通水・水モレ確認実施。月次点検でクーリングタワーポンプの水漏れ確認・調整実施。昨年にグランドパッキンを交換したので2023年はグランドパッキンの締付調整のみで水漏れを防止する事ができた。締付けしろが少なくなってきた箇所は2024年に交換する。



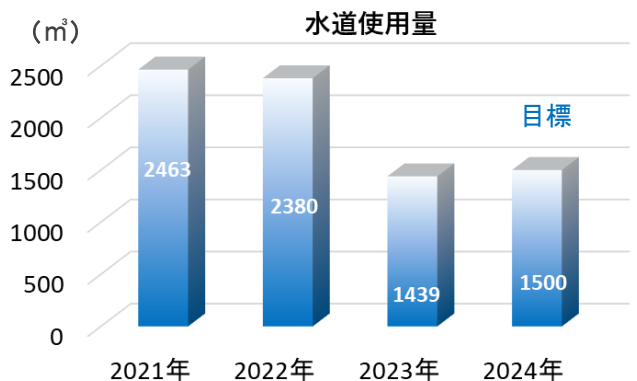
水使用量の削減評価 Check

2022年比で39.5%削減となり目標達成となりました。クーリングタワーの水漏れ確認・調整の予防保全を行った事で予想を上回る削減が出来ました。2024年は消火設備の放水試験実施が有る為使用量が増加すると予想されますが、引き続き予防保全を心がけ使用量削減をめざします。

長期目標 2022年比 2024年まで	短期目標 前年比	2021年	2022年	2023年	2022年比 評価
水使用量 2%削減	水使用量 1%削減	水使用量 = 2,463 ^m 売上比率 = 4.15 ^m /百万円	水使用量 = 2,380 ^m 売上比率 = 3.9 ^m /百万円	水使用量 = 1,439 ^m 売上比率 = 2.6 ^m /百万円	39.5% 削減 ◎

社長の評価・指示 Action

ひきつづき水漏れの早期発見・即時対処を徹底してください。



昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

購入する全オイル・スプレー・グリス類の製品安全データシートを入手し、RoHS指令で禁止されている10物質（鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・PBB・PBDE・DEHP・BBP・DBP・DIBP）が含まれていない状態を維持し、PRTR法でアンチモンの排出量が1,000Kgを超えないよう観測する。

本年度の改善実施 Do

全オイル・スプレー・グリス類の製品安全データシートを100%入手し、RoHS指令禁止物質が含まれていないことを確認した。使用原料のアンチモン含有についてもSDSにて含有量を確認し、排出量を算出した。



化学物質使用量の削減評価 Check

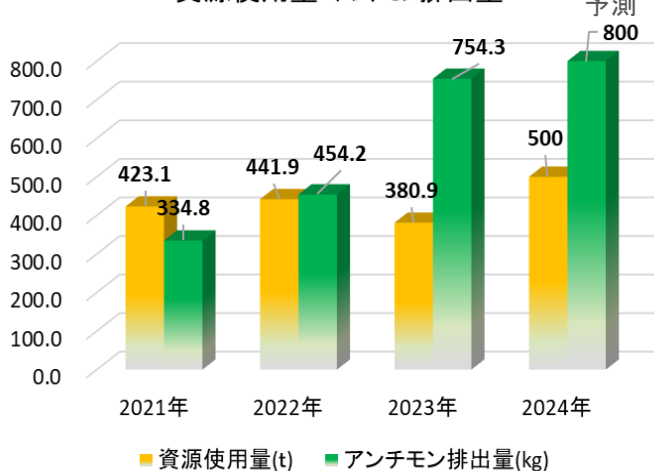
オイル・スプレー・グリス類を新規で使用する場合は、事前に製品安全データシートを入手し禁止物質が含まれない事を確認の上使用しているため、有害物質ゼロを維持継続している。アンチモンはアンチモン含有原料のABS樹脂の使用量が増加した事で（2022年比70%増加）排出量も増加しているが目標の1000kg未満は維持している。

目標	2021年	2022年	2023年	評価
RoHS指令 禁止物質 使用ゼロ	有害物質使用ゼロ	有害物質使用ゼロ	有害物質使用ゼロ	使用0 ○
PRTR法 アンチモン 1000Kg未満	アンチモン排出量=334.8Kg 樹脂使用量=423.1t アンチモン量/樹脂量=0.08%	アンチモン排出量=454.2Kg 樹脂原料使用量=441.9t アンチモン量/樹脂量=0.10%	アンチモン排出量=754.3Kg 樹脂原料使用量=380.9t アンチモン量/樹脂量=0.19%	1000Kg 未満 ○

社長の評価・指示 Action

有害物質の使用はゼロを維持。アンチモンの排出量も引き続き目標値を超えないよう観測して下さい。新規使用するオイル・スプレー・グリス類の事前に製品安全データシートを入手した証拠と有効期限を決め更新した証拠を記載してください。

資源使用量・アンチモン排出量

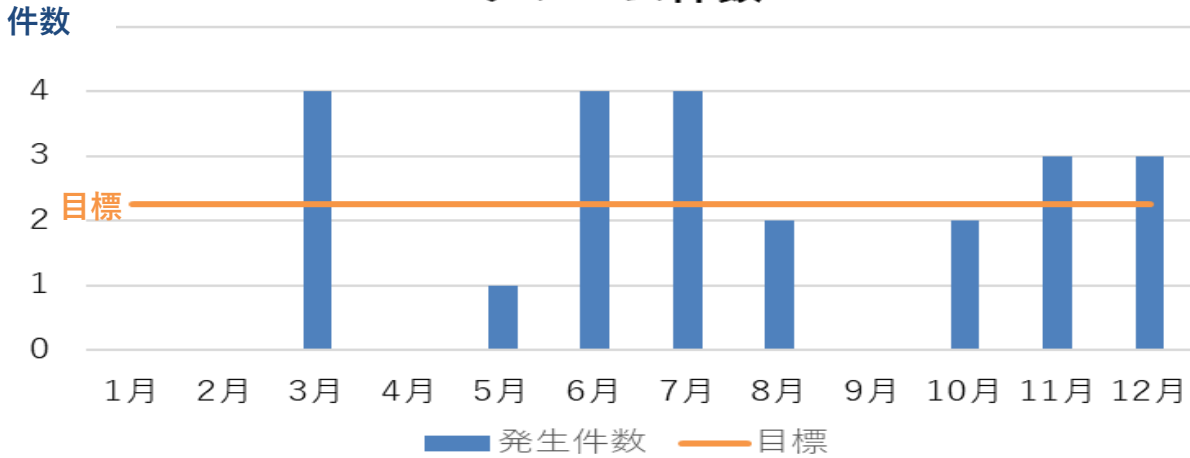




顧客満足の向上【クレーム件数 目標27件/年】

お客様に満足していただくために、先ず品質が良い事が最優先と考えました。最終的にクレーム0件をめざして、毎年取り組んでまいりました。2023年は27件/年を目標とし全社をあげて取り組み、結果23件/年で目標達成。2024年は更に気を引き締め20件/年以下をめざし取り組みます。

クレーム件数



顧客満足の向上【かわら版】

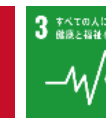
継続は力なり… 年4回発行しています、当社の情報「かわら版」です。独自技術（ガスインジェクションなど）や社長や社員の情報から近くのおいしいお店など満載で、お客様から大変喜ばれています。



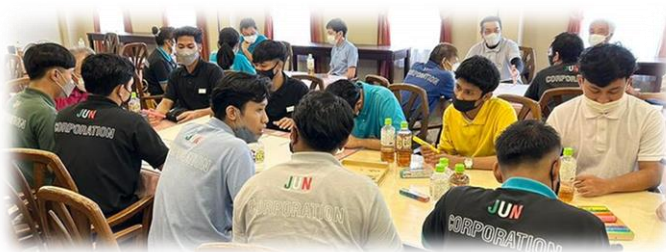
かわら版は当社ホームページで公開しています。

5 代表者の見直し

代表者が環境保全活動の成果を見直し、継続して改善します。



お客様・社員の喜ぶ顔が見たくて・・・



【2023年テーマは個の力を上げる】
改善活動最終発表会の際、次年のテーマを
発表！2023年は『個の力を上げる』
全員でベクトルを合わせて進みました。



【インドネシア特定技能生の新宿舎】
特定技能生2名の為に一人一棟の住居を新調し快
適な居住空間を提供。仕事も勉強も更に頑張れ
ると思います。（更に2棟増築中）



【ハロウィン】
毎年、地域の小学生にお菓子と共に笑顔を
お届け、準備するのもお届けするのワクワク
ワクワクしてハッピーな気持ちになりました。



【チューリップ畑】
会社に来てくださる方へのサプライズとして
花壇にチューリップを植えました。春になれば
色とりどりのチューリップがお客様を迎え
てくれます。

全体の見直し（課題とチャンス）

2023年度は半導体関連の影響で自動車・家電・医療あらゆる産業において受注量が減少した。そして、ウクライナ情勢による電気料金や燃料費の高騰、政府による最低賃金の異例の上昇による人件費の高騰、それらに伴い運賃の上昇や仕入品の値上げにより経営はかつてないほど圧迫した。藁をもすがる思いで太陽光発電を設置したりした年度であった。社員数が1割減ったこともあり、黒字決算で終わった。

2024年度は太陽光発電の稼働や油圧機械の電動機械化が始まるので電気使用量の削減（CO2削減）が期待できる。

来年度に向けて

2024年度の会社方針は「『売上12億』を目指す方法を検討し実施する」と曖昧な方針であるが、今までの延長で考えていては到底到達できない、新しい発想やイノベーションが必要になる。製品の付加価値を上げる、生産方法を変えてみる…等 固定観念にとらわれる事無く意見を出し積極的に行動してほしい。

6 環境経営方針の公開

当社の環境経営方針は全社員に周知し、一般に公開します。

当社の環境方針・環境経営レポートは一般に公開しています。

株式会社ジュンコーポレーションホームページ <https://www.jun-corporation.com/EA21.html>